

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492800095		
法人名	社会福祉法人 司会		
事業所名	グループホーム こかげ		
所在地	三重県度会郡度会町棚橋 198番地		
自己評価作成日	令和3年2月19日	評価結果市町提出日	令和3年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2492800095-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2492800095-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3年 3月 11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、緑豊かな山々と宮川に囲まれた自然の多い環境にあります。宮川沿いの大きな公園には四季折々の樹木が植えられており季節感を味わえる良い場所になっています。施設の周りは、茶畑と住宅が立ち並び、居室の窓からは保育所が眺められ園児たちの元気な声を聞いたり姿を見たりすることが出来ます。近くには中学校や公民館があり、コロナ禍以前は地域行事等の際には参加したり見学に行ったりできる環境を作り地域の方々と良好な関係を築く事が出来ていました。毎月の行事は、気分転換も兼ねて全員で外出する機会を多く設けています。また、天気の良い日は出来る限り外に出る機会を設ける為散歩に出掛けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より7周年を迎えた事業所で、母体法人の西方向に国東寺(くづかじ)という寺があり、そばで佇む木陰のイメージから[こかげ]と命名された由来である。事業所を囲んで、三重の名産「伊勢茶」の茶畑があり、空気が澄んで環境もクリーンである。太り過ぎで体を動かさなかった利用者が、栄養士から「歩く事が大事」と言われて、利用者皆んなで「宮リバー度会パーク」まで往復30分以上を日常散歩で3年間続けた結果、8キロ減量ダイエットが達成出来た。身体機能も良くなり動きは軽くなった。事業所理念の「心穏やかに、家族・仲間・職員と互いに、元気で笑顔あふれる介護」の共有と実践に繋がっている。現在も[こかげ]の利用者らは、30分の日常散歩を日課としており、チームワーク支援で健康増進に努めている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で作成した理念を、事務所や玄関の見える場所に掲示し家族様にも見て頂けるようにしている。毎日朝の申し送り時に唱和し、入居者様の立場に立った業務が出来るようにしている。	毎朝の申し送りで理念の唱和を行い、理解を深めている。どんな時も職員は利用者一人ひとりに寄り添い、居心地良い環境で淋しさを感じない様、理念を意識して取り組んでいる。[こ][か][げ]から始まる3行の理念が、玄関と事業所内に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度まで参加していた地域行事等はコロナ禍の為全て中止となっている。2カ月に1回馴染みの美容院の方に訪問して頂き散髪を継続している。毛染めを希望される方は美容院に出向き実施してもらっている。	自治会加入はないが、町内に避難訓練への職員参加や情報交換出来た経緯があり、今後も継続を願っている。広報に「こかげ施設紹介」が掲載され、認知症の啓発や地域での信頼に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の方々について理解して頂いている。今年度は開催中止の案内をお渡しする際に資料を添付して理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回状況報告を行い行事や生活の様子を伝えている。開催出来ない為資料に質問や意見の用紙を付け加えたことで返信等を頂ける機会が増えている。	コロナ禍での取組みに変化はあるが、書面開催での報告や質疑応答にて、年に6回開催されている。今迄に無い意見や書面での交流が増えてきており、今年度の企画も予定されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居の報告や施設の現状を伝えている。市町担当者は運営推進会議の資料を見て頂き事業所の取り組みも把握してもらっている。また、地域の情報等も教えて頂いている。	介護保険更新手続き等は、管理者が担当者の窓口まで出向いている。相談や報告事項等は事務局が行っており、担当者からは実践拡大や応援の声、情報等を得たり連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。居室は鍵をつけておらず玄関は施錠していないが、センサー音で出入りが分かるようにしている。転倒防止の為安全対策の一環としてセンサーマット等を使用する工夫をしている。	ミーティングの場で、身体拘束に関わる意見交換や、利用者の安全な暮らしの工夫や取り組みを話し合い、職員の意識を高め合っている。	身体拘束適正化対策委員会を3か月に1回の定期開催を行い、委員会記録をファイリング整備され、「身体拘束ゼロ」を目指して取り組まれる事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてミーティング等で話し合い理解を深めている。言葉や介助方法にも視点を置きどのように対応すべきか話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が権利擁護推進員養成研修を修了し、管理者及び職員に対して業務の中で指導している。必要な時には対応できるようにしているが、現在活用されている方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に全ての書類を読み上げ更に説明を行い、不明点や疑問点を確認の上同意書を記入して頂いている。法改正等変更時は書面にて説明し理解を得ている。常に相談できる体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会を禁止している為、何か変化があったり気になることがあればその都度電話で伝え会話の機会を設けている。小さなことでも意見や要望を頂けるようにしている。	毎月発行の「こかげ便り」を個別に送付し、家族からは好評で喜びの声が届き、距離を縮めている。其れによって家族との会話のやり取りや相談も、し易くなるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りに時間をかけ、毎月のミーティングに前回の振り返りをしたり、新たな問題を検討している。	事務局より年に一度、職員の自己評価や振り返りを行なっている。職員からの気付きや提案等は管理者が把握し、事務局に伝えて結果を職員へ説明し、検討の上で活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じて業務状況や実績を把握し、要望を確認している。状況に応じて法人本部と意見交換を行い各種整備に努めている。また、必要であれば代表者が職員に説明している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で思うように参加できていないがその時の状況のみて参加している。参加後は全員が資料に目を通し更にミーティングで報告している。法人内での研修は各自でDVD鑑賞にて実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で研修を見合わせたりしているが、参加できる時には同業者との交流の場としている。また、情報交換を行いサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査で本人様の状況を把握し現在の困りごとや不安、今後の要望を話し合い、安心できる環境づくりに努め、少しでも早く信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族様との話し合いの中で、現在や今後の困りごとや不安、今後の要望をお聞きし家族様も安心してもらえるサービスを開始できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や申込み時に現在の状況を十分に聞き取り、何が必要かを家族様と本人様の視点で考え安心してサービスを受けることが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする中で、教え合ったり助け合ったり励まし合ったりしながら良い関係を築けるようにしている。今まで出来ていたことが継続できるように考えながら入居者様同士であったり職員と一緒に実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には良いことも悪いことも、何かある毎に連絡し現在の状況を伝え、思いをお聞きするようにしている。現在面会が出来ない為なるべく多く連絡を取り安心して頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会の機会はないが、2か月に1回感染対策をしっかりと町内の美容院の方が散髪に来て下さり、毛染めを希望される方には美容院に出向き実施することを継続している。	入居以来親族からの手紙や電話が毎月届く利用者は、記憶が長続きしない面もあるが、職員が寄り添って馴染みの関係継続を支援している。懐かしい演歌はいつも盛り上がり、トランプやおはじき等も集中される場面が多く人気である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や、生活のリズムを把握し孤立することのないようリビングでの席を考えたり、机を囲んで出来る遊びなどを頻繁に行っている。考え方の相違等でトラブルになることもあるが常に見守りを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も何かあれば連絡を頂けるよう声掛けしており、家族様が状況を教えて下さったりできる関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	同じ時を過ごす中で思いを話されたり仕草を見て想像したりして職員間で共有し検討している。	家族から認知症の方には「目を見て話をしたい」との願いが有り、日常の傾聴には職員皆が心掛けて実践している。把握出来た思いや内容は、介護記録に記入して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を入居者様や家族様から聞き取りアセスメントシートを活用して情報収集している。その後も新たな情報を知ることがある為追加して職員に伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りを聞いたり介護記録に目を通したり、又日々変わる対応方法などは定着するまで職員の目に触れる場所に貼り出して統一したケアを実施し職員間での情報交換で現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に担当職員を配置して細かい所まで把握し、改善点があればミーティングで確認している。本人様には日頃の会話、家族様には電話等で、必要時には協力医に意見を求め介護計画を作成している。	職員の担当制でモニタリングは毎月開催され、アセスメントも細やかに更新記載されている。本人をよく知り、出来る事を探して継続している。見直し時期にはその都度、家族への説明や話し合いが出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は分かりやすく記録に残し、今後の生活に繋げるようにしている。申し送り時に業務日誌を読み上げ情報を共有し必要であればその場で話し合ったりミーティングで検討し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況に応じて協力病院以外の病院への付き添い等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や見学、民生委員の慰問等が中止となったが、解除されれば再開していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望された場合は継続できるよう配慮している。施設協力医とは往診以外でも24時間密に相談できる関係を築いている。専門外医療が必要な場合は適切な病院を紹介してもらっている。	協力医5名、かかりつけ医4名は家族付添い受診であるが、毎月1回の訪問診療は全員で、協力医が把握と対応に備え、家族も了解である。夜間も協力医には連絡可能であり、法人内看護師からも、一時的な応援が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の異常を発見したり、気付いたりした時は必要に応じて、同法人の看護師に相談している。また状況に応じてPTや管理栄養士にも相談して対応の仕方等の指導を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍中に入院される方は居なかったがそれ以前は、入院中に面会を行い、その都度状態の把握が出来るよう情報を得るようにしている。退院後も不明点は連絡できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に関しては協力医と連携をとり、疑問を感じた時は細かいことでも相談してその都度家族様に状況を伝えるようにしている。また必要であれば直接話しをする機会を設けている。	これまでに1名の看取り経験がある。現在事業所の方針としては、根底に医療行為がある場合は、家族や主治医との相談、施設移動の案内等、話し合いを重ねて理解を得て、事業所の力量に合った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時には管理者や公的機関に連絡を行い指示に従い行動するよう指導している。救急に関しては日中、夜間の対応マニュアルを貼り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、非常時には行動できるようにしている。地域の防災訓練に職員と数名の入居者様と参加していたが、昨年はコロナ禍の為中止している。	年2回の消防署届出の自衛訓練を実施しており、地域より夜間火災等有れば「声掛けて下さい」と応援の声を貰っている。付近の宮川増水や氾濫は無いと、町や消防からも意見を貰っている。地域の避難場所が事業所敷地隣で、実際に徒歩で実行出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人の人間として目上の人として、また人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れず言葉掛けや対応に注意している。小さなことでも羞恥心を味わうことのないよう配慮している。	呼称は原則○○さんであるが、個性が強い利用者はニックネームしか反応されず、家族了解済である。入浴や排泄時には、場面に応じて人格を尊重した声掛けや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを引き出せるよう、言葉を選びながら、またわかりやすく答えやすいような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、関わりを大切にしている。動きが緩慢で一人一人のリズムは違うがその方のペースで過ごして頂けるよう出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に好みの服を準備される方や職員と一緒に選ばれる方もある。毎日肌着と靴下を交換して入浴日以外でも衣類の交換を行っている。基礎化粧品を使用される方もあるので見守りや介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や盛り付け等職員見守りのもと一緒に行い、誕生日などの時は皆で手作りしてお祝いしている。また好みの茶碗や箸を使用して食事をしている。毎食前は口腔体操を実施し献立を読み上げている。	業者より食材とメニュー表が届き、得意な利用者には下準備に参加し、職員が調理している。魚料理も利用者の口に合わせて、焼いたり煮たりと調理法を工夫している。誕生日会は職員の手作りケーキで喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の把握を行っている。状態に合わせて食事形態や量を変えて提供している。摂取量の少ない方には別の物を提供したり、食事以外でも水分を勧めたりして一日に必要な摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄や歯磨きの声掛け、見守り、介助を行っている。毎晩義歯洗浄剤を使用して清潔を保っている。歯科往診にて口腔ケアを行ったり、入居者様の相談にも対応してもらい受診することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況をチェック表や様子を見て確認し、職員間で連携をとりながら声掛け、見守りまたは介助を実施している。	布パンツの自立者が3名、紙パンツは6名、夜間のみオムツは2名である。トイレでの排泄支援を基本とし、現在の自立度が維持される様に、職員間の連携を図って支援している。介助抵抗や便意困難で二人介助の場合も、職員間の工夫や努力により、利用者の習慣が整ってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操、リハビリ体操、タオル体操を実施して、天気の良い日は散歩で身体を動かす機会を設けている。便秘傾向の方は協力医に相談して薬で調節したり家族様の協力にて毎朝牛乳を飲用される方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回午前に入浴して頂き、ゆっくり会話をしながらマンツーマンで対応している。状態をみて2人介助で対応することもある。また入浴剤を入れて季節感を味わえるよう工夫している。	週2～3回午前中の中の入浴で、水曜日と日曜日は休んでいる。希望者は3回入浴対応し、拒む方は次回に繰越したり、無理強いはいしていない。立位困難の時は安全第一で、二人介助の入浴である。入浴剤や季節の柚子湯にしたり、気分良く安心して入浴時間を過ごして貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は照明や温度で環境を整えている。日中の過ごし方を工夫したり昼寝を取り入れて生活のリズムを作るようにしている。居室にポータブルトイレを置き排泄動作の短縮が出来るようにしている方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はすぐに見れる場所に置いている。状態変化に気付いた時は速やかに報告し、薬の変更や追加があった時はその都度申し送っている。服用時は二人以上で確認ミスのないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることややりたいことを探し、任せて一緒に実施している。就寝前に飴をなめたりお茶を飲んだり、コーヒーの好きな方はおやつ時に提供している。外出の機会を設けて気分転換となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛け日常的に戸外に出ている。行事はなるべく外出できるよう計画を立てている。感染対策をしっかりされた上で家族様に病院受診に付き添ってもらっている。	事業所から徒歩15分位の「宮リバー度会パーク」迄、天候が良い日は日常散歩している。コロナ禍でも、季節の花巡りを車でドライブ計画もあり、全員で楽しい外出を予定している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に施設で預かっている。欲しい物があれば家族様に確認して管理者が代理で購入している。時には一緒に出掛けご本人に選んでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在こちらから電話をしたり手紙を書きたいと言われる方はみえないが希望があれば応じる。家族様からの電話があれば事務所で話しをして頂き、手紙が届けばご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いた花や、入居者様と一緒に月ごとに壁飾りを作成して飾っている。入浴剤や排便後に消臭剤を噴霧して不快を感じないようにしたり、冷暖房や加湿器を利用し更に毎日換気をしている。	リビングの窓際は弧を描くカーブの造りで、豊かさを感じられる。洋の中にも和を感じさせる畳コーナーも、利用者には多くの時間を過ごす安心の場である。南面から入る陽光が一層の居心地良さを増し、室温・湿度・換気が一定に保たれて憩いの場が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時は決められた席に座られるが、それ以外は自由に移動され、一つの机に集まって遊びをされる事も多い。畳コーナーでは洗濯物を干したり畳んだりして皆さんで使用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間にできるよう、なるべく自宅で生活されていた時に使用していた家具やご本人の好みそうな生活用品を持ち込んでいただけるよう家族様に協力してもらっている。	居室のエアコンとクローゼット以外は、全て使い慣れた生活用品が持ち込まれ、自由な自分の生活の部屋造りである。腰窓のシャッター式雨戸は防犯防水に安心である。家族の写真等が大切に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自席、居室が分からない方には印をつけている。出来る家事は男女問わず一緒に実施してもらっている。シルバーカーを使用される方が多い為置き場所を工夫して転倒に繋がらないようにしている。		